

【実習報告 5 滋賀県近江八幡市】

おやじ達の背中から学んだコミュニティづくり

ー退職男性グループ「おやじ連」の活動からー

人間学部人間科学科 4 年 戸澤奈未

キーワード 伝統文化 ボランティア 地域づくり 仲間づくり



地域住民の手によって保全された八幡堀

私は近江八幡市での約一週間の実習を通して、人との関わり・コミュニティづくりの大切さを学びました。おやじ連の様々な活動に参加させていただいた経験から、仲間と共に活動することの楽しさや苦勞を伝えたいと思います。そして、今後の課題や若者との関わりについて考察しました。

1. 地域紹介

近江八幡市は滋賀県のほぼ中央に位置し、総面積は 177.45 km²（うち琵琶湖 76.03 km²）、2016 年 10 月現在の人口は 82,117 人です。

市内北東部に広がる琵琶湖最大の内湖である西の湖には、湿地帯が広がっており、そこでは一面にヨシが生い茂るヨシ原の光景を目にすることができます。このヨシ原を中心に、周辺の田畑、里山、西の湖と琵琶湖を結ぶ八幡堀といった水郷景観が、重要文化的景観の第一号として選定されました。八幡堀は時代劇の撮影場所としても使われています。このような自然豊かな景観や風情のある街並みが、多くの人を魅了しています。

2. 実習概要

(1) 実習の趣旨

近江八幡市の文化的資源を活かした学習と地域づくり活動を学ぶことを目的としました。地元「おやじ連」の活動に参加させていただき、まちづくりに関わるボランティア学習や地域活動の体験実習を行いました。また、地域活動団体の一つである「NPO 法人百菜劇場」の活動にも参加させていただき、地域づくり学習に関する理解を深めることができました。

(2) 背景－近江八幡市を選んだ理由－

近江八幡市のおやじ連を知ったきっかけは社会教育主事の資格を取るための必修科目である「生涯学習施設実習」という講義を受けたことです。この講義では生涯学習を取り扱っている施設や団体を訪問し、その地域に根付く学習を体験的に学ぶことを目的としています。私が社会教育主事の資格を取ろうと思った理由は、社会教育主事が公民館などの社会教育施設で講座の企画や実施をするという仕事内容を知り、興味を持ったからです。社会教育主事の講義の中では、度々「生涯学習」という言葉が出てきました。私は最初、生涯学習は学校教育のような勉強のイメージを持っていました。しかし、講義を重ねていくにつれ、生涯学習とは学校教育や社会教育、そしてボランティアや趣味活動など様々な機会において行う学習ということが理解できました。子供からお年寄りまで全ての人の学びであること、さらに趣味といった自分の生きがいになるものまで生涯学習に含まれることが分かり、とても素晴らしい考え方だと思いました。

私が今回実習先として選択した近江八幡市は、まさに「生涯学習」という言葉がぴったりの場所でした。様々なスキルを持ったおやじさん達が、定年退職後に新たなフィールドでボランティア活動や趣味の活動に励んでいるとのことでした。「おやじ連」はこのようなおやじさん達の集まりということで興味を持ちました。当初は知らない土地、知らない人々のところに行くことに大きな不安を抱いていましたが、近江八幡市やおやじ連の活動を調べていくうちに、ワクワクとした感情が芽生えました。

(3)生涯学習としての位置づけ

おやじ連の活動の学習形態は、イベント型・団体型・社会貢献型です。一人で行う場面は少なく、みんなで取り組むことが特徴です。学習課題については、「要求課題」と「必要課題」が挙げられます。要求課題とは、明確な学習への動機付けとなっている顕在的テーマや関心のある課題のことを示します。一方必要課題は、学習者の要求としては自覚されませんが、教育目的や目標に照らし学習する必要性のある課題のことです。おやじさん達は、自発的な興味、関心によって様々な活動していますが、同時に環境課題などの必要とされる課題にもアプローチしているため、両方の課題を満たしているといえます。

(4)実習の日程

- 1 日目：8 月 22 日(月) いまさかプロジェクト、近江八幡市案内
- 2 日目：8 月 23 日(火) ポレポレ 25 の料理作り定例会
琵琶湖へのドライブ案内、
- 3 日目：8 月 24 日(水) 白鳥川の景観を良くする会のヒツジの牧柵・宿舎の撤去
水曜サロンの水彩画制作
- 4 日目：8 月 25 日(木) NPO 法人百菜劇場のイベント参加、八幡堀の見学
- 5 日目：8 月 26 日(金) 出川先生の運転で水郷や西の湖の探索
- 6 日目：8 月 27 日(土) 八幡山の景観を良くする会のコナラ林&遊歩道除草作業

3. 実習内容

(1)「おやじ連」とは

近江八幡市では、平成 13 年度から退職男性の閉じこもり対策、居場所作り、仲間づくりを目的として「男の料理教室講座」が開催されました。そこに参加した“おやじ”たちが、毎年 1 つずつ料理教室同窓生による退職男性グループを結成しました。やがて、グループの所属に関係なく参加したい人が定期的に集まって活動する地域のボランティア団体がいくつも立ち上がりました。このような経緯から、現在では 25 団体・350 名の近江八幡おやじ連（通称：おやじ連）が誕生しました。

～近江八幡市退職男性グループ～

平成 14 年 健康推進友の会：料理教室

平成 26 年 ポレポレ 25：料理教室・スポレク・ボランティア

平成 28 年 ひつじの会シープス：料理づくり

～自由参加のボランティア団体～

【環境活動系】

白鳥川の景観を良くする会：白鳥川の草刈・ゴミ拾い

八幡山の景観を良くする会：竹林・コナラ林整備

市民・生ごみリサイクルプロジェクト：生ゴミリサイクル学習会の開催

いまさかプロジェクト：いまさかの整備

【趣味・親睦系】

水曜サロン：水彩画や紙芝居の制作

よし笛会：びわ湖よし笛ロードに四季の花を咲かせる活動

頂いた資料を参考に作成。25 団体中の一部の団体を表記。

(2)いまさかプロジェクトー耕作放棄地の再生ー

おやじ連の有志が参加するいまさかプロジェクトの活動を見学しました。近江八幡市円山町の中洲に位置する放置田圃の再生利用に着手し、このプロジェクトが立ち上がりました。10 年以上放置された元田圃は雑木・茨が茂りジャングルと化していたそうです。約一年の歳月をかけて整地し、野原に戻すことができました。毎月の手入れを実行することは、想像するよりも遥かに大変な苦労があったのではないかと感じました。

いまさかにはカヌーに乗って上陸しました。この日は 9 人でいまさかの整備を行いました。先月できなかったから 2 カ月ぶりとおっしゃっていて、草が生い茂っていました。草刈り機を使い、それぞれ分担して草を刈っていました。とても暑かったこともあり、皆さん汗だくになっていました。私は作業がひと段落した後、カヌーイストでもある江川さんと一緒に、いまさかの周りをカヌーで一周しました。カヌーを漕いだのは初めてでした。風が強くなると漕ぐのが大変で、腕が筋肉痛になりそうでした。ですがそれ以上に、自然の中を巡ったカヌー体験は気持ちよく、楽しかったです。

いまさかでは野菜や果物を作っています。春にはサツマイモ掘りをする収穫イベントを開催しているそうです。「八幡には山や川など遊べる所がたくさんある、とても良い所。子ども達に近江八幡を親しみ、愛してもらいたい」とおっしゃっていたことが印象的です。たくさんの親子が参加する、楽しそうな写真を見せていただきました。



写真 1：生い茂る雑草とおやじ達



写真 2：カヌーから見えた風景

(3) ポレポレ 25 の料理教室－料理は人との距離を縮めるもの－

今回私のホスト役を引き受けて下さり、大変お世話になった東森さんが率いるポレポレ 25 を紹介します。ポレポレ 25 は平成 26 年に誕生した退職男性グループの一つです。タンザニア語で「のんびり・ゆっくり」という意味のポレポレと、平成 25 年の料理教室講座のメンバーで結成したと言う事で、【ポレポレ 25】に決まったそうです。ポレポレ 25 の皆さんは小学校にゴーヤで作った緑のカーテンを設置する活動など、積極的に地域活動に参加しているようです。集まったときにも、2 カ月先の予定を決めたりと、忙しそうな様子でした。月に一度の料理教室は、総合福祉センターのひまわり館という場所で行われました。この日は“トマトとキュウリのサラダ”“ジャガイモと玉ねぎの塩肉じゃが”“イカと野菜の炒め物”の 3 品を班に分かれて作りました。メニューや作り方も、それぞれの班が月ごとに担当して決めるそうです。おやじさん達は料理教室講座で初めて料理をしたという方が多いとおっしゃっていましたが、皆さんとても慣れた手つきでした。時にはどのように切ればよいか話し合いながら、協力して料理を作りました。一緒に作るということは楽しく、仲が深まるように感じました。料理教室では料理が得意な人は苦手な人に教える、双方の学びが生まれていました。その他にも、英語が得意な人に英会話を教えてもらうことがあるとおっしゃっていました。自分のこれまでの経験が学習資源になっています。学び合えるということが、様々な知識やスキルを持った人が集まるおやじ連の特徴ではないでしょうか。



写真 3：美味しくできた料理

(4)環境ボランティア活動ー汗を流す気持ちよさー

私が参加させていただいた環境ボランティア団体が2つあります。一つ目が、白鳥川の景観を良くする会です。近江八幡市中央部を流れ、琵琶湖へと注ぐ一級河川が「白鳥川」です。白鳥川の景観を良くする会は、この白鳥川沿いの散策路の整備をしています。私は羊の牧柵・宿舎の撤去活動に参加しました。羊に雑草を食べてもらい除草すること、住民の癒しの空間にすることが目的で羊を放していたのですが、この日は最終日で、羊を県畜産技術振興センターに返す日でした。朝8:30から開始だったのですが、8時すぎには皆さん集まっていて作業を開始していました。おやじさんは早起きで少し気が早いようです。私は宿舎に使われていた木材を運ぶ手伝いや、雑草刈りをしました。



写真4：雑草を食べるヒツジ



写真5：宿舎を解体する様子

二つ目に参加した団体が、八幡山の景観を良くする会です。八幡山の麓の竹林は放置され荒廃してしまいました。さらに、コナラ林も雑木やクズのツルに覆われ密林状態になっていたそうです。そこで八幡山の景観を良くする会を立ち上げ、定例的に竹林・コナラ林の整備活動が行われるようになりました。

小雨が降る中、草刈り機や蚊除けの線香をもって作業を行いました。私は遊歩道に生えているアサガオのツルが伸びてしまった部分を鋏で切る作業や、手作業で雑草を抜いたりしました。この会の代表である村西さんに、「きれいになると気持ちいいでしょう？」と話しかけていただきました。本当にその通りで、うっそうと茂っていた草がなくなると気持ちよく、達成感を味わえました。作業をしているとすぐに時間がたってしまいます。この有意義な時間の活用も、活動の魅力ではないかと感じました。

(5)NPO 法人百菜劇場ー人の繋がりを実感ー

おやじ連の活動ではなく、NPO 法人百菜劇場という地域団体が開催しているイベントにも参加させていただきました。百菜劇場は安心・安全な食のネットワークづくりを目指して活動をしています。農薬や化学肥料に頼らない農業を広めるための講座やイベントを開催していて、この日はピザ作りをするというイベントを行っていました。百菜劇場で作っ

た野菜を使い、生地から手作りのピザを作りました。近所に住むお子さんやお母さんが参加していました。子どもたちは上手に包丁を使い、力を込めて生地をこねていました。トッピングには一人一人の個性が現れ、とても面白いなと感じました。また、畑にジャガイモを植えるという農業体験もしました。

最初は大人しい子もいましたが、段々と周りの人に慣れていき、子ども達の楽しそうな笑顔をたくさん見ることができました。東京では中々体験することができない、地域の人々の繋がりがあからこそできる活動だと思いました。



写真 6：野菜やチーズをトッピング



写真 7：ジャガイモ植え体験

（6）まちづくりー住民の意識に感動ー

近江八幡のシンボリック存在である「八幡堀」は、運河として近江商人の交易を支えていました。しかし生活排水によって汚染され、ヘドロが溜まり悪臭を放つようになったそうです。このような問題から、八幡堀の再生・保存活動が行われるようになりました。近江八幡青年会議所によって始まったまちづくり運動は市民にまで広がりました。昭和 63 年には「八幡堀を守る会」が設立されました。市民の参加によって、定期的な清掃活動や周辺環境整備が今でも続けられています。八幡堀を守る会の幸村さんに八幡堀を案内していただきました。八幡堀を再生した理由は「観光のためではなく、八幡堀があるから今の近江八幡がある。それをなくしてはいけない」という声があったからとおっしゃっていました。

八幡堀をはじめ、伝統的な街並みや自然が保全されているのは、地域住民の参加・協力があったからです。歴史や人々の想いを知ること、近江八幡の良さをさらに感じることもできました。

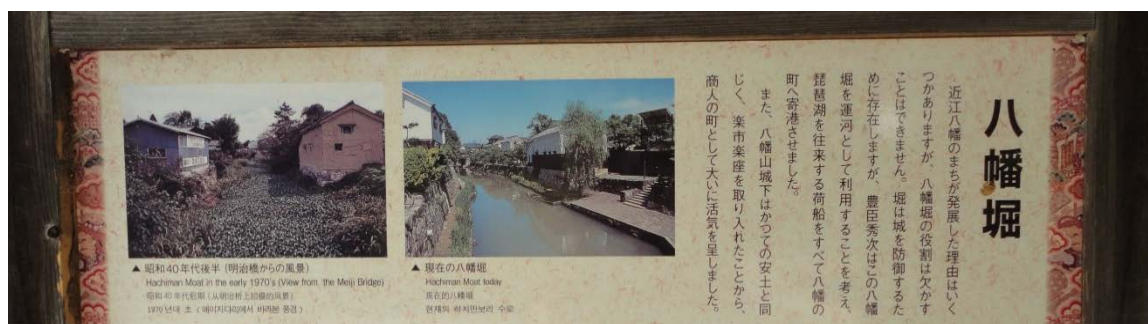


写真 8：八幡堀の案内看板（左の写真が昔の八幡堀です）

4. 実習を通じて感じたこと

（1）仲間づくりの大変さ

おやじさん達は皆仲が良く、楽しそうに活動している姿が印象的でした。現役時代の役職などと言わないことがルールとなっていて、平等な関係が築かれていました。私がこの実習を通して最も苦勞したことが、グループの中に入ることです。既存のグループ、誰も知らない人がいる中に入ったとき、どのように振る舞えば良いのだろう、どうすれば皆さんに馴染めるだろうとモヤモヤと考えてしまいました。緊張してしまい上手く話せなかったり、積極的に行動することができないこともありました。実習を終えて、もっと自分から話しかければ良かった、もっと自発的に動けば良かったと反省点ばかりが浮き彫りになりました。

私が感じたことは、おやじ連に所属する人誰もが経験したことがあることかもしれません。最初は皆知らない人同士が集まり、一から関係を構築していきます。時には気が合わないと感じる人が現れることもあるでしょう。仲間というものは、お互いの良いところ、悪いところを認め合いながらできるものだと思います。生きていく中で幾度と新しい関係を築いていくことがあると思いますが、それは生涯続くのだと実感しました。私のもっとこうすれば良かったという経験は次に繋がります。このように学び合いながら、おやじ連はそれぞれの個性を活かしながらも、まとまりのある集団になっているのではないかと考えました。

（2）人との出会いの素晴らしさ

実習期間中、色々な人に出会いました。生ゴミの処理について詳しい人、ひもの結び方に詳しい人、60 歳以上の方が通う大学に行っている人など、物知りな方ばかりです。その中でも、多くの時間を一緒に過ごしたポレポレ 25 のリーダーである東森さんを紹介したいと思います。東森さんは一見怖そうに見えましたが、とても明るく、とても優しい方です。近江八幡市観光ボランティアガイド協会にも所属しているため、近江八幡のことに詳しく、街の中を案内・説明していただきました。そんな東森さんですが、ガイド協会に入る前はあまり近江八幡のことを知らなかったそうです。入ってからどんどん興味を持ち、近江八

幡の歴史の奥深さに触れていきました。おやじ連の皆さんに共通してある特徴が、学びたいと思う気持ちではないかと感じました。新しいことに挑戦し、自分の視野を広げているようでした。その他にも、「おやじ連に入る前はあまり活動的ではなかったが、おやじ連に入ったことがきっかけで外に出るようになった人もいる」とおっしゃっていました。

このように、おやじ連の活動を通して出会う人がたくさんいます。色々な人の刺激を受けてもっと自分を高めたいと思う人や、もっと皆と活動したいから健康に気をつけようと思う人もいるかもしれません。人との出会いの素晴らしさこそ、おやじ連が長く続く秘訣ではないかと感じました。



伝統的な街並みと筆者

(3) 楽しさと生きがい活動の源

「なんで皆笑顔で楽しそうにやっているか分かる？それを考えたらおやじ連のことが分かるよ」おやじ連の代表高橋さんの言葉です。それは“自分のため”“皆のため”の活動だからではないかと考えました。やらされているのではなく自分がしたいからボランティア活動を行う、全部自分の判断で主体的に活動していました。そして、暑い中でも皆さんいきいきと活動していました。自分自身も暑くて大変だなと思う反面、綺麗になる喜びと皆で一緒になって活動する楽しさを実感していました。また、趣味の活動で水彩画を描いている水曜サロンを訪問した際には、好きなことを共有できる楽しさを感じました。

自分たちの楽しみや健康づくりの活動が派生して地域づくりへと繋がっていました。自分たちの活動が地域の人のためになる、誰かの役に立てることはとても嬉しいことです。おやじ連の活動は、おやじさん達一人一人の生きがいとなっていました。



写真 10：水彩画制作。女性も参加

5. 首都圏の施設との連携方策について

おやじ連では毎年1月に「近江八幡おやじ連作品展」を開催しています。絵画・写真・陶芸・竹&木工芸・ほか各グループの活動紹介パネル等が展示されます。私は展示された作品の写真を見せて頂いたのですが、本当に多種多様で、素晴らしい作品ばかりでした。

この作品展を東京都池袋にある生涯学習施設、みらい館大明で行われる「大明まつり」

で開催するのはいかがでしょうか。私はこの実習に行くまでおやじ連という言葉を知ることがなく、全くの無知の状態でした。実際に行ってみて、一番驚いたことはおやじさん達の元気さです。私の父はまだ働いていますが、特に趣味があるわけでもなく、将来はどのように老後を過ごすのだろうと心配になります。そのため、おやじさん達の動きっぷりや楽しそうな姿に衝撃を受けました。私はインドアで運動することはめったにありません。しかし、一週間おやじさん達と一緒に過ごし、体を動かすことの気持ちよさを学びました。そしてたくさんの元気やパワーをいただきました。このおやじ連の活動をもっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。そこで大明まつりでの展示は、とても良い機会だと思いました。大明まつりに訪れた人が展示品を見て、自分もおやじさん達のように生き生きと活動したいと影響を受けるかもしれません。そしておやじ連のような活動が都市部にも広がり、高齢者の活躍の場が増えるきっかけになってほしいと感じました。

6. 今後の課題と展望

おやじ連の活動は、強制されることなく、自由参加が基本となっています。しかし、ボランティア活動をするにあたって人手が必要だったり、人数が集まらないとできないこともあるようです。より多くの活動に参加したいと思う人もいれば、気が向くときだけで良いと思う人もいます。一人一人の気持ちを尊重しながら、継続させるためにどのように折合いを付けていくかが活動の課題ではないかと感じました。

また、毎年新しい仲間が増えることで生じる問題もあるのではないのでしょうか。同期グループの活動以外の環境活動などは、誰でも参加可能です。そのため、上手く仲間に入れないことがあるかもしれません。もともといる人は経験豊富で知っていることが多いですが、初めて参加する人は何をすれば良いか分からないことがあると思います。実際に私も、皆さんがてきぱきと動いている中、いったい何をすればよいのだろうと戸惑いました。それは私の周りの方とのコミュニケーション不足が一番の要因です。この経験から、新たなメンバーと既存のメンバー同士の関わり合いが重要だと思いました。自分で判断して行動することも大切ですが、どんどん話しかけて仲間になりたいと思う気持ちを表現することが、コミュニティに所属する上で大切なことだと学びました。

7. 若者との関わりについて

前原（2008）は、エリクソンの発達理論を基に、老年期における社会との関わりについて述べています。老年期の発達の課題は、自我の統合性と絶望です。エリクソンによれば、老年期の発達課題である統合は、若い世代とのかかわり、祖父母的生殖性を発揮することによって促進されるといいます。ここでの祖父母的生殖性とは、「親としての生殖性に固有の責任は負わずに、孫たちを導き、愛し、世話し、役に立ってあげることができる」という意味です。孫を世話し、孫の成長を見守ることはこれまでの自分の中年期の発達課題である生殖性を再評価し、受け入れることにつながると述べています。さらに、伊藤（2013）

によれば、エリクソンは、個人が高齢期に遭遇する数々の危機に直面し自らの課題を解決する過程は、その解決を通じて本人の中に人生を生き抜いていく自我の強さが獲得されるだけでなく、その姿も見ている若い世代を同時に育て、将来彼らが高齢期を生きていく時の良きモデルとなるのだと指摘しています。

このように、老年期において自我の発達を促すには、子どもとの関わりが重要ということが分かります。また、若い世代にとっても高齢者と接することは成長につながると考えられます。実際におやじ連の活動の中にも、子どもが参加・見学できるイベントが開催されていました。しかし、いまさかでのサツマイモ掘りのイベントを始め、小学生までの子ども達が多く参加している印象を持ちます。私も小学生のときには地域の催し物に参加していましたが、中学生になるとあまり顔を出さなかったように感じます。そこで、私は近江八幡市に住む中学生・高校生を対象に、おやじ連の活動に参加できるプログラムを提案したいと思います。そのプログラムは、私が行ったように、夏休みを利用して一週間の体験学習を行います。少人数のグループで参加して、ボランティア活動や料理教室を通しておやじさん達と触れ合うことを目的とします。普段の生活の中では、祖父母との関わりのみで他の年配の方と関わることは少ないと思います。また、思春期になると都会への憧れが強くなったり、地元の良さが分からなくなることもあると思います。そのため、おやじさん達の言葉で近江八幡の良さを聞くことや、他愛ない話をするのは刺激になると考えます。そして実習の成果を新聞のような形でまとめ、子ども達の親にも配ります。親世代でも、おやじ連の活動の存在は知っていても具体的にどのような活動をしているのか知らない人もいるのではないのでしょうか。地域で活躍するおやじさん達を知ることは、地元への信頼感に繋がると考えました。そして、おやじさん達にとっても様々は想いを持った中学生・高校生と接することは、生きる上での活力になると感じます。したがって、おやじさん達と若者達が結ばれることで双方が学び合い、より良い地域づくりへと発展していくのではないかと考えました。

8. おわりに

私はおやじさん達の姿をみて、「自分もこんな風になりたい」と感じました。仲間とともに汗を流し、楽しそうにおしゃべりする姿はとても輝いて見えました。私は自ら人と関わることに苦手意識を持っていましたが、人と関わることの良さをたくさん知ることができました。一人でいる方が楽だと感じる一方、寂しさや孤独感を感じることもあります。充実した人生を送るためには、一人では成し遂げられないことを学びました。私はこれからの人生において、積極的に自分を表現し、楽しい時間を共有できる仲間を多く作ってみたいと思いました。そして、自分を表現するフィールドは、学校生活や職場だけでなく、地域に根差す活動やボランティア活動、趣味団体など地域社会に多く存在することが分かりました。多くのことに気づかせてくれたおやじ連の活動は、私にとってとても価値のある経験になりました。おやじ連の活動がこれからも長く続き、おやじ連の皆様が元気に活

躍される姿を期待しています。

参考・引用文献

近江八幡おやじ連・冊子プロジェクト「おやじ達の青春物語」暮らシフト研究所，2016

大正大学社会教育主事課程「地域づくり学習のフィールドワーク手引きー平成 27 年度生涯
学習施設実習報告ー」株式会社ティー・マップ，2015

前原武子「発達支援のための生涯発達心理学」株式会社ナカニシヤ出版，2008

伊藤俊夫「新訂 生涯学習概論」株式会社ぎょうせい，2013